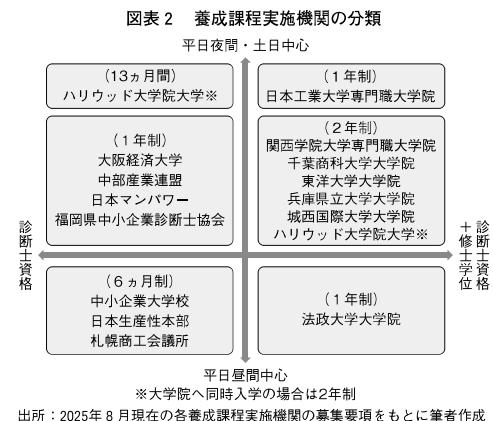
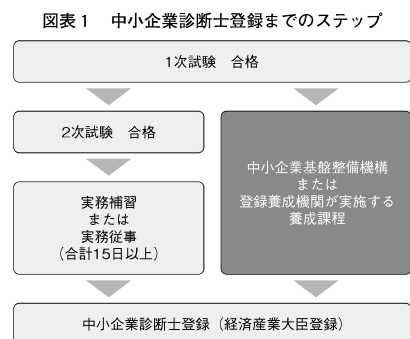




1 養成課程とは

中小企業診断士になるには、診断士1次試験に合格したうえで、2つのアプローチがあります（図表1）。1つは、2次試験合格後、合計15日以上の実務補習を修了するか、診断実務に従事する方法です。もう1つは、独立行政法人中小企業基盤整備機構または登録養成機関が実施する養成課程を修了する方法です。



出所：一般社団法人日本中小企業診断士協会連合会のWebサイトをもとに筆者作成

2 養成課程の特徴と分類

(1) 養成課程の特徴

養成課程のカリキュラムは、演習と実習で構成されています。「中小企業支援事業の実施に関する基準を定める省令」には、演習と実習の合計時間が642時間以上と定められています。

演習では、講師による講義とグループワークを中心に、コンサルティングの知識やスキルを習得します。

実習は計5回行い、実践的なコンサルティング能力を身につけていきます。始めに実習班が編成され、実際に企業を訪問し、経営者へのインタビュー、現地調査などを通じて情報収集します。続いて、実習班で議論を重ね、改善提案を検討し、診断報告書を作成します。最後に、経営層に向けて診断結果報告会を実施します。

養成課程を受講する際には、入学金と受講料合わせて200万～300万円程度の費用が必要となります。また、入学試験があり、書類審査や筆記試験、面接審査など、各機関の選考方法にもとづいた対策が必要です。

近年の診断士資格の人気の高まりを背景に、受験倍率も年々上昇しているといわれています。受験対策をせずに入学試験に合格することは困難です。さらに、入学後も6ヵ月～2年といった一定の期間、養成課程に通い続けなければ修了できないことから、時間確保のために家族や勤務先との調整も必要となります。

養成課程は時間と授業料がかかりますが、高い満足度を誇る結果が出ています。筆者が2024年11月、養成課程に修学している現役生徒52名にアンケートを実施したところ、5点満点で平均値が4.46点という結果でした（ふざけ的な合格答案公式ブログ「養成課程とは～びろ編～」より）。

(2) 各養成課程実施機関の分類

各養成課程実施機関の特徴を把握するために、以下の3つの項目に分類しました（図表2）。

① 受講時間帯による分類

講義の受講時間帯は2つに分類できます。1つは「平日昼間中心」で、中小企業大学校、日本生産性本部、法政大学大学院などが該当します。会社に通学しながらの通学は難しく、企業派遣

や独立志向の高い受講生が多いことが特徴です。

もう1つは「平日夜間・土日中心」で、日本マンパワー、東洋大学大学院、兵庫県立大学大学院、ハリウッド大学院大学などが該当します。会社勤めをしている通学生が多いことが特徴です。

② 学位取得による分類

診断士資格と同時に学位取得を目指すか否かによっても2つに分類できます。大学院が運営する養成課程実施機関は、MBAやMOT、ビューティビジネス修士などの学位の取得が可能です。東洋大学大学院や法政大学大学院、兵庫県立大学大学院などが該当します。

③ 受講期間による分類

受講期間は6ヵ月、1年、2年の3つに分類できます。中小企業大学校、日本生産性本部などは6ヵ月制の短期集中型です。一方で学位を取得できる大学院は、受講期間が長い傾向にあります。

各養成課程・登録養成課程実施機関の概要については、本特集の最後に掲載します。ただし、あくまで概要であるため、詳細は各機関のWebサイトで最新情報をご確認ください。